

ふれあい情報

速報

■発行 日本高齢・退職者団体連合(退職者連合)

■発行人 羽山 治美

■連絡先 〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 3-2-11

Tel:03-5295-0507 Fax:03-5295-0541

<e-mail>taisuyokusharengo@sv.rengo-net.or.jp

2013年3月21日(木) 第160号

(速報の記事・写真の転載は自由。データが必要な場合は送付可)

第4回幹事会

2013年度運動方針
(一次案)を確認

退職者連合は3月12日、連合本部において第4回幹事会を開催し、2013年度運動方針の第一次案を確認。ただちに中央・地方での組織討議に付すことにしました。(案は14日に中央・地方に送付済み)

今後も被災地の支えに

幹事会の冒頭、阿部保吉会長は2年目を迎えた3・11東日本大震災にふれ「被災者は今も過酷な暮らしを強いられている。退職者連合として復興支援に向けてできるだけのことをやり遂げていく」と挨拶し、今後も被災地の支えとなっていくことを明らかにしました。さらに会長は男女平等参画について「超高齢化の中で退職者には

大きな役割がある。それは地域で貢献することが重要だ。同時に地域の取り組みは組織拡大にも寄与する。高齢者にとって男女平等参画社会はどうあるべきか、これから議論していきたい」と述べました。

次期役員選挙を告示

幹事会では、第5回役員選考委員会の報告を受けて、次期役員(会長、事務局長、同次長、幹事など)の立候補の告示を同日付で行いました。

連合との連携を確認

幹事会には連合本部の高木禎之総合局組織局長が出席。高木局長は「3月5日に開催した連合第10回組織委員会での退職者連合300万アクションプラン推進に向けた連携活動の取り組みを決定した」と報告。「47地方連合会と構成組織に周知徹底したい」と述べました。これを受けて幹事会では、退職者連合として連合本部・構成組織・地方連合会との連携を進めるための具体的な取り組み内容を

<第4回幹事会・内容>

I. 報告事項

1. 第5回役員選考委員会について
2. 委員会関係について
3. 第2回組織代表者会議について
4. 連合との政策調整について
5. 組織強化・拡大関係について
6. 組織実態調査について
7. 3・5男女平等参画討論集会
8. 連合関係
9. 中央労福協関係

II. 協議事項

1. 2013年運動方針について
 - 社会保障制度及び税制等に関する要求について
2. 組織強化・拡大に向けて
 - (1)連合第10回組織委員会報告
 - (2)連合との連携推進について
3. 退職者連合3・9院内集会について

III. 当面の日程

IV. その他

決めました。合わせて連合の決定の内容の周知と退職者連合の取り組み方針を中央・地方に徹底することも確認しました。なお、当日は第8回常任幹事会と第14回組織強化委員会も開催されました。

<写真>第4回幹事会。12日、連合本部。あいさつする阿部会長(右から二人目)と高木局長(左から2人目)。



男女平等参画で高齢者を地域の人財活用に

3.5 男女平等参画討論集会

会場を埋めた参加者

「男女平等参画の前進に向けて」をテーマに退職者連合の男女平等参画討論集会が3月5日午後1時から連合会館で開かれました。集会には会員など約140名が参加し、会場は熱気にあふれました。この催しは例年開催されており、この日の集会では、退職者連合の阿部保吉会長の主催者あいさつで始まった後、内閣府男女共同参画局長の佐村知子氏を講師に「今、なぜ男女共同参画なのか」と題して講演があり、続いて退職者連合男女平等参画委員長の上田京子副会長（全国退女教）の司会で6人の中央退職者組織の代表によるパネルディスカッションが行われました。

地域貢献の場づくりを

集会であいさつした阿部会長は、「男は外で働き、女は家庭を守る」という習慣がわが国で長く続いた結果、14年前に制定された男女共同参画基本法が行政をはじめ企業や団体などに定着していない」と指摘。「政府は女性の雇用・処遇の改善や子育て支援を同時並行的にやるべきだ」と訴えました。さらに会長は、自らの体験を紹介しながら高齢者にとっての男女平等参画について「高齢者を地域の貴重な人財として活用するため自治体と協力して子供を守る、認知症のサポート、環境を守るなどの地域貢献の場をつくる必要がある」と提案しました。



現状と今後の課題を提起

続いて行われた講演で佐村局長は、①女性の活躍と経済活性化②ワーク・ライフ・バランスの推進③防災・復興と男女共同参画④女性に対する暴力などについて、佐村局長は具体的なテーマを提起しました。さらに局長からは2010年12月に決定された第3次男女共同参画基本計画の概要として①経済社会情勢の変化等に対応して、重点分野を新設②実効性のあるアクションプランをするため、それぞれの重点分野に「成果目標」を設定③2020年に指導的地位に女性が占める割合を少なくとも30%程度とする目標に向けた取組を推進④女性の活躍による経済社会の活性化や「M字カーブ問題」の解消も強調、などについて説明がありました。



佐村知子局長

古い慣習や意識の変革を

シンポジウムでは冒頭、上田副会長が司会者の立場から「男女平等参

挨拶する阿部会長(5日、連合会館)

画社会の実現には、多くの課題がある。学習会や討論集会を積み重ね、



上田京子副会長

古い慣習や意識を変革していこう」と述べ、6名のパネラーの報告や会場での討

論に期待を表明しました。

パネラーには西澤恵子(NTT退)、鈴木孝子(自治退)、平川久江(日退教)、大寺美也子(退女教)、須賀章徳(日産エルダー)、熊崎清子(UAゼンセンシニア)の6氏が登壇。それぞれの組織の現況、経験や方針等についての報告がありました。

高齢低所得単身女性対策を

会場内からも自治退、NTT退、日退教、UAゼンセンの参加者から発言がありました。特に自治退からは、退職者連合の2012対政府要求にある高齢低所得単身女性の課題に関し、「退職者連合として①男女平等参画委員会が作業の中心となる②現在の委員会構成に若干の臨時委員を補強してプロジェクトチームを作って取り組む必要があるのでは」等の意

見があり、司会の上田副会長は「さっそうと退職者連合の機関でよく協議して対応したい」と回答しました。

◇パネラーの発言◇

(各報告の要旨：敬称略)

女性参加でキメ細かい活動に

ONTT 労組退職者の会 西澤恵子

現在、女性の会員割合は4割。全国都道府県ごとに1支部協議会となっている。特徴は女性が中心のポストにいとキメ細かい活動を展開して、レクなど行事・学習会などに女性の参加が多い。また支部協の下にあるブロックでは地域的な活動が主なため、家から出やすいこともあり、支部段階より女性役員が多いのが特徴だ。課題としては、女性役員がゼロの支部協対策。

重点は女性幹事の登用促進

○日産労連・エルダークラブ 須賀章徳

女性会員の構成比率は約3%、800名。自動車産業は、製造業であり、大多数の社員はライン作業中心で、女性は事務処理など間接部門に従事しているため。エルダークラブとしては毎年の重点活動で「女性幹事の登用促進と女性会員が参加し易い行事の企画・立案実施ができる環境づくり」を明記している。実際の活動では「女性懇談会」を女性役員中心に企画・立案して開催している。

元気な退女教づくりを

○全国退職女性教職員の会 大寺美也子

組織拡大が重要。取り組みを工夫し、現職との共同行動を重ね、「入って楽しい元気な退女教」をアピール。「男女平等」の視点をもった議員を増やすための選挙活動が、会員同士の連帯を深め、会員増にもつながっている。男女平等の実現を阻む最大の要因は、「稼ぎ手は男性、女性はその補助」という伝統的性別役割分担意識が未だに人々の中に根強いから。お互いの意識を変える努力が必要だ。

介護共生社会の樹立めざす

○日本退職教職員協議会 平川久江

日退教は全国で62の単会が結集する協議会。組織人員約56,000人のうち女性会員は約18,000人。単会の活動は地域で、今の時期は組織強化・拡大に取り組んでいる。毎年10月には日退教活動交流集会在開催され単会の活動が報告される。日退教では女性の声が届く場も多くなり、男女共生委員会を立ち上げた。男女が自立した介護共生社会の樹立をめざして行動を始めている。

楽しく参加できる組織づくりを

○全日本自治体退職者の会 鈴木孝子

自治退の会員数は23万9,582人で442の単会があり女性は76,009人。自治退の方針として単会、県本部で

の女性役員の拡大を目指して男女共同参画の推進を図っているが、女性役員がまだまだ少ないのが現状。女性が出やすい身近な問題をわかりやすく、楽しく参加できる組織こそ魅力を感じる。女性の積極性はもとより参加しやすい退職者会の運営を目指していきたい。

P会議でゼロゼロ運動推進

○OUA センシニア友の会 熊崎清子

友の会は会員相互の親睦と交流、福祉の増進を目的に地域活動や福祉共済事業を行っている。今年の活動方針は「プロジェクト会議」の設置で会員入会促進、会員拡大だ。具体的には「ゼロゼロ運動」として、いわゆる会員ゼロの単組を解消する工夫を出し合う、友の会活動の継承のためリーダーの発掘検討など。このプロジェクト会議を通じて女性会員拡大と役員やリーダーづくりを目指す。

ジェンダー平等をめざそう

シンポのまとめでは上田副会長が「次世代の人たちによりよい社会を残すためにさわやかに、しなやかにジェンダー平等をめざそう」と締めくくりました。

なお各報告の詳細は、第17回定期総会「活動報告」に掲載します。



(写真下)右から熊崎氏、須賀氏、大寺氏、平河氏、鈴木氏、西澤氏の各パネラー。



後期高齢者医療制度の廃止 | 社会保障制度充実・参院選勝利 | 退職者連合 3・19 院内集会

退職者の怒り爆発 “こんな政治は許さない”

退職者連合は3月19日14:00から衆議院第2議員会館において後期高齢者医療制度の廃止、社会保障制度充実・参院選挙勝利に向けて院内集会を開催しました。集会には中央退職者組織及び東京近辺の地方退職者組織から約180名が参加。来賓として連合の南雲弘行事務局長、民主党の大島章宏代表代行(衆議院議員)、社民党の又市征治幹事長(参議院議員)があいさつをしました。さらに参院選挙立候補予定議員及び候補者がいる構成組織の代表が決意表明し、最後に「今後とも民主党を中心とする野党と連帯し、充実した社会保障制度を目指す」との集会宣言を採択しました。

参院選に打って出よう！

この日の集会は、安倍自公政権が生活保護費の削減など社会保障水準の引き下げを強行しようとしていることに対決し、退職者連合の要求の前進をはかるため、主催者を代表して阿部保吉会長は「再び自民党との闘いが始まった。要求実現は困難を極めるだろうが、我々はひるんではいけない。まず今年6月の都議選で現有議席を守った上で、7月の参院選挙で連合組織内9名を勝利させなければならない。今日の集会は参院選に打って出るためだ」と決意を述べました。

また、経過報告をした羽山治美事務局長も「この集会をスタートに行



動を起こしてほしい」と都議選、参院選への決起を訴えました。

連合の存在をかけた闘い



南雲事務局長

来賓としてまず連合の南雲事務局長があいさつ。「人よりも経済を優先させる自民党に断固とした態度で臨む。都議選・参院選は連合の社会的存在をかけた闘いだ。組織の持てる力を注ぎ、安心社会の実現に向けて最後まで闘う」と連帯の表明をしました。

日本の未来がかかった参院選 必勝のためご支援を！



大島代表代行

続いて政党からは民主党を代表して大島章宏代表代行があいさつ。「参院選で安倍内閣に多数を与えれば衣を脱いで鎧姿が現れる。参院選には日本の未来がかかっている。参院選に勝利させてほしい。退職者連合のご支援をいただきたい」と強く述べました。

自公政権コリゴリだ

また、社民党の又市征治幹事長は

都議選、参院選へ決意固める参加者

「アベノミクスで格差が開くだけ、自公政権はもうコリゴリだ。何としても参院選に勝たなければならない」とあいさつしました。



又市幹事長

連合候補9名の必勝へ！

当日は、連合推薦の予定候補者(別掲)で在京中の方が出席。参院選勝利に向けてそれぞれ決意を表明しました。組織代表による決意表明では、日産エルダー、電機退、JP退、UAゼンセン、自治退、日教組退、基幹労連退、NTT退の各代表から決意表明を受けました。

参議院選挙立候補予定議員

(連合組織内候補)

名前 (敬称略)	組織
川合孝典	UA ゼンセン
神本美恵子	日教組
いそざき哲史	自動車総連
轟木利治	基幹労連
石上としお	電機連合
相原久美子	自治労
吉川沙織	情報労連
定光かつゆき	JP労組
浜野よしふみ	電力総連

(敬称略)